

## 平成31年度事業計画

大阪文化財研究所を「一般財団法人大阪市文化財協会（以下、「大阪市文化財協会」）」へと名称を変更し、引き続き埋蔵文化財の調査と保存に取り組み、40年の長きにわたり蓄積してきた経験と知識の継承と人材の育成を図る。

また、これまで博物館・美術館と連携し、特別展や毎年の発掘調査速報展の開催や講演会・連続講座を実施するなど文化財の教育普及に努めてきたが、大阪市立大学、大阪市博物館機構との包括連携協定の枠組みを堅持するなど連携に努め、引き続き埋蔵文化財の調査研究成果の積極的な公開、活用を図る。

また現在、大阪市、大阪市教育委員会において埋蔵文化財行政を推進する業務のあり方や体制について検討が進められているが、これまで大きな役割を果たしてきた立場から引き続き協議、調整に努めることとする。

### 1. 埋蔵文化財の発掘調査・報告書作成等

#### (1) 文化財調査受託事業

公共事業による発掘調査では、豊臣期石垣公開事業に伴う特別史跡大坂城跡本丸地域のほか、大阪府・大阪市による開発事業に伴う調査数件が予定されている。民間事業では「うめきた2期」開発に伴う大深町遺跡をはじめ、その他の市内各地における大型宿泊施設や集合住宅建設に伴う開発事業に伴う発掘調査約50件を予定している。また、平成29年度に大阪府の開発に伴って調査した難波宮跡と、平成29・30年度に大阪市の大阪中之島美術館建設予定地で調査した中之島蔵屋敷跡の報告書2件を作成し、成果を公表する。

#### (2) 保存処理・分析事業

市内遺跡の遺構や金属・木製品などの多種多様な出土文化財を保存し、博物館展示等の活用に応ずるほか、他地域の出土品や文化財の保存処理・分析を受託する。

#### (3) 文化財関連施設の管理事業

平野区にある大阪市埋蔵文化財収蔵倉庫や東淀川区の埋蔵文化財発掘調査・収蔵施設などの維持管理事業を受託して、市内の発掘調査で出土した資料を良好な状態で保存・管理するとともに、地域の重要な文化資産として、博物館や美術館等の展示・教育普及事業で継続して活用できるよう整理する。

### 2. 保存科学分析技術の開発と文化財資料への応用

当研究所が開発したトレハロース含浸処理法は、保存処理が困難であった布や木・鉄複合遺物も対象とした画期的な手法であり、これまで博物館・美術館で展示公開が困難であった資料も積極的に活用できることから、科学研究費などの助成によりさらに研究を進め、国際博物館会議水浸考古遺物保存会議(WOAM)などの学会や研究会で、その成果の発表と普及に努めるとともに、資料の保存処理やその技術指導などを行って国内外からの期待に応えていく。

また、大阪市博物館機構をはじめ博物館・美術館における資料の収集・保存・展示などで協力し連携を図る。

### 3. 文化財に関する研究

学芸員の逡減により、調査研究組織としてカバーできる専門領域が狭まる懸念があるため、外部研究者との密接な連携により様々な分野に対応できるようめざす。また、平成13年から文部科学大臣指定の研究機関として採択を積み重ねてきた科学研究費助成事業をはじめとする外部資金の獲得に努めて文化財や考古学、保存科学に関する共同研究や国際交流を進め、講演会や研究紀要の刊行などで成果を公表する。

### 4. 教育・普及事業

#### (1) 発掘調査による資料の活用と継続

大阪市教育委員会と協力して発掘調査の成果を市民に直接公開する現地説明会を開催すること、大阪歴史博物館とともに発掘成果速報展（特集展示「新発見！なにわの考古学」展）を主催することなどにより、最新の調査や研究成果に基づいて出土資料を活用する。また、当協会がこれまでの遺跡調査で記録した写真・図面資料等を提供し、博物館・美術館や学校、出版社など各種の展示・教育普及事業からの依頼に応える。

ほかに、遺跡に隣接して出土品を展示している各地域の公共・民間施設（市内33箇所の展示施設：「街角ミュージアム」）の維持と継承を図り、難波宮跡公園をはじめとする史跡や、資料の照会・見学に対応する。

#### (2) 関連資料の収集・管理

文化財に関連する調査報告書及びほかの関連図書等の収集・管理に努める。

#### (3) 講座等による生涯学習および人材育成

大阪歴史博物館と「金曜歴史講座」・「大阪の歴史を掘る講演会」をはじめとする講座・講演会を共催し、その他の博物館・美術館施設や他団体が開催する市民向け生涯学習事業に対し、企画・講師派遣等で協力する。また、大阪市立大学での学芸員資格取得講座をはじめ、各地の大学や国内外の文化財研究機関からの要請に応じて講師を派遣し、人材育成や技術指導に協力する。

#### (4) 史跡難波宮跡の活用

難波宮調査事務所を活用し、学校教育や生涯学習の要望に応じて、史跡見学対応や難波宮跡をはじめとする出土遺物展示等を実施する。

#### (5) 地域と連携したイベント等への協力

大阪市の博物館・美術館及び地域の団体と連携して「なにわの宮りレーウォーク」等の見学会、「古代市（平野区）」・「中央区民まつり」等の地域活動に協力する。

#### (6) 情報発信

情報誌『葦火』の刊行やホームページを通じて、文化財やイベント情報などを発信する。

(7) 他団体との連携

全国埋蔵文化財法人連絡協議会へ参加・協力するほか、同協議会近畿ブロックで構成する実行委員会に参画し、平成 20 年度以来毎年行っている『関西・考古学の日』を開催する。

**5. 大阪市の博物館・美術館との連携**

(1) 大阪歴史博物館との連携による共催・協力

特集展示「新発見！なにわの考古学 2019」をはじめ、考古学と文化財に関する事業で共催および協力をする。

(2) そのほかの博物館・美術館との連携

調査・研究、展示、教育普及、広報において、大阪市の博物館・美術館をはじめとする関係機関との連携を進め、文化財に関する事業および博物館・美術館活動の活性化に努める。